

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社ブロッサム	代表者	藤原 美里	法人・事業所の特徴	開設してから、4年目になりますが、「地域の人気者」をモットーに地域に密着した事業所を目指し、利用者の事を理解し、その方らしく自立した生活ができるように支援し、その方に関わる全ての人々が少しでも幸せに生活できるように、取り組んでいきます。
事業所名	小規模多機能センターきらり妹尾	管理者	藤原 美里		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	1人	1人	1人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者の生活歴・習慣をしっかり聴き取りし、その方らしく生活できるようにする。スタッフ間情報を共有し、プランを作成する。	ケアプランを把握し、その利用者が自宅でどのような生活をしていて継続して身の回りの事が自身で出来るように関わられる時間が設ける。	利用者の生活や生活歴を理解した上で、関わっていったらと思います。出来る事は、継続して出来るように関わりをしていく。	利用者の生活や性格を把握し、在宅での生活を維持していけるように、関わりをもち、情報を共有し楽しんで生活して頂けるように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節のイベントを企画し季節を感じて頂けるように工夫する。ドライブや散歩・体操を行い利用者が笑顔で過ごせる環境づくりに取り組む。整理整頓をする。	季節のイベントやその時期に咲く花などをレクや手作業で作成し飾り季節を感じて頂くよう取り組めた。笑顔で生き活きと体を動かせるように工夫を行った。	なかなか外に出て行ける機会が少ないと思うので、事業所内を季節に応じて季節を感じてもらえるように	四季を感じられるように、イベントや外出の回数を増やす。利用者が楽しく笑顔が増えるように体も心も元気にできるように支援していく。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナ感染対策を行いながら、地域のイベントやボランティアに来ていただき地域との関わりを持てるようにする。	利用者と一緒に地域の散歩やごみ拾い、小地域ケア会議への参加等を通じて関わりが出来るように心がけた。	地域の活動も少しずつ再開してきているので利用者と一緒に参加してほしい。	地域の方が気軽に訪れることができ交流や相談に来るなど地域の拠点や相談所になれるようにする
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	送迎や訪問時に地域の方に挨拶をしたり、回覧板に目を通し地域の活動を知り可能な限り参加できるようにする。	送迎・訪問時に近隣の方に挨拶を行う、ご利用者と地域のごみ拾いをした。地域でのお祭りや行事にも利用者と一緒に参加する。	利用者の地区の方に見守りをお願いしたり、サロン会や有償ボランティアを利用することで連携がはかれました	地域のイベントだけではなく利用者一人一人のこれまでの地域での役割を確認しサロン活動や近所の方との交流が出来るようにする

E. 運営推進会議を活かした取組み	2か月に一度運営推進会議を行い地域での取り組みや意見等を活かしていく。地域の活動に参加できる体制を整える。	会議で話した内容を共有し、新たな活動などを聞き取り活動に参加できるように検討していく。	今後も地域で困っている方の情報の共有や防災に関しても取り組みを聞きたい	メンバーの方に地域での困りごとを聞き取りどのように支援していけばよいか検討する。
F. 事業所の 防災・災害対策	マニュアルを参考に災害・防災訓練を実施し訓練の反省を含め次につなげられるようにする。備蓄品の点検を定期的に行うようにする。	防災訓練の反省を生かしながら、マニュアルを改正して、訓練を定期的に行っていく。防災計画について、地域の方と話をしていく。	災害の時に地域で近隣の方に声掛けをして、避難場所にスムーズに移動できる体制ができたらと思う。	防災について、会議等で情報を共有し、施設での備えやマニュアルを改正していく。日頃から防災について意識して取り組む。